
平成 23 年度 第 2 回「学芸大学駅周辺地区懇談会」 議事概要

日 時：平成 24 年 3 月 1 日（木） 午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

場 所：鷹番住区センター2 階、第 3、4 会議室

出席者：メンバー：11 名

目黒区：都市整備課：幡野課長、双木係長、馬瀬氏

コンサルタント：益永、小林、本田

1 報告事項、資料等の説明

- ・ 「学芸大学駅周辺地区整備計画」等の推進に向けて（再確認）
- ・ 「あんしん歩行エリア形成事業」の進捗状況について
- ・ 「商店街の街づくり」の取り組み状況について
- ・ 学芸大学駅西口前緑地等の整備工事について

2 意見要旨

あんしん歩行エリア形成事業計画について

「あんしん歩行エリア」内の整備事業について

- ・ あんしん歩行エリアの理念を共有していくことが重要であると思う。何を目的にこの整備を進めてのかなど、整備の目的等を地域で共有する方法を考えてほしい。
路面表示と標識の両方で視覚に訴えるだけでなく、整備が終了した段階で改めて街づくりニュースに掲載するなど、今後もニュース等を有効に活用して事業の目的等についての周知を図っていきたい。
あんしん歩行エリアの理念を共有するための一つの方法として、例えばコミュニティ道路開通の式典などのように、カラー舗装整備の完了イベントを行うことも有効ではないか。
 - ・ 整備効果は、どのように評価するのか。
あんしん歩行エリア形成事業は、国の補助事業であり、歩行者や自転車の交通事故数の減少などによって、評価される。
 - ・ 鮫洲大山線の東横線からバス通りの間の整備は、現時点で完了なのか。
都道であり、現時点で東京都の整備は完了している。一部区間では、道路幅員が狭いため、交通管理者との現場実査の際に路側帯の拡幅は出来ないと判断せざるを得なかった。
 - ・ カラー化等の整備が終わった後に下水等の整備を生じた場合、路面はまた汚くなってしまう。カラー化した路面をどのように維持するのか、下水道整備やその後の復旧の方針を決めておくことが必要ではないか。
区道の掘削工事については、企業者等との道路調整会議を毎年数回実施しており、路面整備後の掘削規制を行っている。カラー化等の整備後は、2～3年は掘削ができなくなることもあり、整備前の段階において、下水道整備時期などとの調整を行った。路面整備後の維持管理は区になるが、修復等は、優先順位をつけて整備していくことになる。
- 補助 26 号線の整備について
- ・ 整備の見通しを教えて欲しい。
用地買収はかなり進んでいると聞いている。
 - ・ 目黒通りと駒沢通りとの変則的な交差点について、都と協議は行っているのか。
区道の取り付け位置などを含め、東京都との調整や庁内の担当者レベルで検討を進め

ている。

- ・ 東横線のガード下は通過交通が増えた。補助 26 号線ができれば、より増えるのではないか。

補助 26 号線の整備の後、車の流れがどのように変化するかについては、今後検討していく予定。交通規制を変えるなどの対応が必要になると考えており、まずは、大きな方向性を示していきたい。

東西商店街カラー化について

- ・ 商店街がカラー化されると、歩行空間を、自転車や商品がおける空間だと誤解する人が出てくると思う。そのため、そういったものを置かないように、整備前から周知・徹底することが必要だと思う。
- ・ カラー化してきれいになり、歩行者が通りやすくなったといえるとよいと思う。
- ・ カラー化された空間が自転車置き場等と誤解されないように、「街づくりを考える会」でルールづくりを進めて、商店に徹底するようにして欲しい。
- ・ 歩行空間が広くなると、逆に商品を置けない幅になるのではないかと思う。路面にあんしん歩行エリアの標識がプリントされていれば、もっと置かなくなるのではないかとも思う。

この事業は交通安全対策として行っている。白線の設置と併せて車道と歩行空間を区分し、歩行空間を最大限確保することと明るくすることで安全性確保を目指している。ハード整備でできることには限界がある。自転車や商品のはみ出し対策等については、商店街で声掛けをしてもらうなどソフト対応が大切である。

- ・ 道路が区分されるのはよいが、通りに看板が置けなくなると困る。全てがだめということではなく、予め自主ルールを決めておいて、その中で商品や看板を出せばよいと思う。まずは、こちらが何をするか決めた上でルールづくりを行うことだと思う。
- ・ 平成 24 年度のカラー化が完了に合わせて、看板や自転車などの対策が始められるように、早い段階から準備が必要だと思う。

様々な工夫の仕方があるが、0 か 100 かというのではない。

たとえば、武蔵小山の商店街では一定のルールの中で、お客さんの安全を考えてここまで、というラインを決めている。

平和通り商店街では、自転車を車道中央に駐輪しているが、昭和 40 年代から行っていることなので、警察も苦勞している。道路交通法では禁止されていても、歴史があるので継続できている。

武蔵小山も、平和通りでの取り組みを見ると、商店街はお客さんを迎い入れるという姿勢が重要だということがわかる。

「商店街の街づくり」の取り組み状況について

商店街のルールについて

- ・ 地元の商店の方よりチェーン店（特に飲食店やドラッグストア）のマナーが良くないと思う。
- ・ 強く自覚してもらうため、消費者から直接言ってもらうのも一つではないか。
- ・ 商店街が放置自転車や看板等の 2 点を改善した、と消費者が思えるような空間になるよう、お願いしたい。

役員の方は、自転車や商品はみ出し等について努力して各商店に伝えているが、なかなか改善に結びついていない。今回のカラー舗装整備をきっかけに、これからが勝負だと思う。時期を逸さないよう、区と地元が協力していくことが必要である。

生鮮食品や日用品が買えないというのは問題なので、先々のことを本気で考えていく必要がある。街歩き等の機会を利用して実態や特徴を把握し、議論を積み重ねていくことが重要である。

- ・ 最近店舗が多様化しており、新規に出店する人は、近くに住んでいないようである。

- ・ 「まちをつくる」ということは、商店や住民が多様化する中で、大手チェーン等どんな店でも、出店する以上はルールを守ってもらうことが必要だと思う。
- ・ 看板を出せない等、ルールでがんじがらめにするのではなく、商店街として目指す姿を共有していくことが必要だと思う。
- ・ 「街づくりを考える会」では、古くから出店されている人のプライドや新しいものを取り入れていく姿勢が伺えたが、商店街を見たときに、そのプライドが表れていないと思った。
ルールは、カタチよりプロセスが重要である。今回はルールづくりを先行したが、本来は、街歩き、課題の抽出、方向性の検討等を繰り返して、議論を積み重ねていく。街歩きをきっかけに、取り組んでもらえると、ルールが生きてくると思う。
- ・ 商店街のルールはまだできていないという解釈でよいのか。
以前示したのは商店街全体の考え方である。この街歩きをきっかけに、今後は個別の商店街が、それぞれの特徴を出していこうと考えているところである。
- ・ ルールができた際は、どこかにそのルール、理念を貼りだしておく必要があると思う。ルールを決めることは重要であるが、それを目で見えてわかるものがあると更によいと思う。
- ・ 高架下等に駐輪をさせない方法として、小学生に絵を描いてもらうのはどうか。
- ・ 学大ブランドの商店街として、商売に結び付けていきたい。
- ・ 駅構内に情報板を設置し、利用者から意見をもらうことを考えてはどうか。
事例を探してみる。

商店街の街歩きについて

- ・ 街歩きを行う際は、町会等多くの人に知らせて、その中で一人、二人参加できればよいと思う。
- ・ 町会や住区にも交通部があるので、声を掛ければ出てくると思う。話し合いも進むのではないかと。
- ・ 「街づくりを考える会」に参加してもらうためには、参加したときのモチベーションや次回も参加したいと思ってもらうことが重要だと思う。今は顔見知りの集まりであるが、今後は、新規オーナー等多様な人に参加してほしい。
- ・ 地域に様々な団体があり、呼びかけているが、反応してもらえないのが実状である。
呼びかける時に、商店街街づくりニュースなどを見せて話してもらえるとよいと思う。

その他

- ・ 今年度、地区懇談会を2回開催したが、来年度も同様のペースで行っていく予定である。
- ・ 東西商店街の工事は東口から行っていく予定で、夏ごろの着工を目指している。

(商店街)

- ・ 祭りの時期とはずらすようにしてほしい。
- ・ 西口は1~3月頃でもよい。
工事時期の調整も含め、工事の内容を充分理解して協力していただけるよう、説明会などきめ細かく対応していく。

以上